

花咲スポーツ公園新アリーナ等
基本計画（案）
概要版

2025（令和7）年1月

旭 川 市

目 次

1. 基本計画策定の背景と目的	1
(1) 花咲スポーツ公園再整備の背景	1
(2) 基本計画策定の目的	1
2. 新アリーナ整備に向けた現状の整理	2
(1) 国の動向	2
(2) プロスポーツの動向	2
(3) 市民の新アリーナ及び周辺整備に対する意向	2
(4) 東光スポーツ公園複合体育施設の見直し	2
3. 整備基本方針	3
(1) 基本理念・基本方針	3
4. 必要機能・規模	4
(1) 必要機能・規模	4
(2) 必要駐車台数	4
5. 公園北東側エリアの整備方針	5
(1) 公園施設計画	5
(2) 施設配置計画	6
(3) アクセス	6
(4) 動線計画	6
(5) 交通計画	6
(6) 外構計画	6
6. 新アリーナ整備方針	7
(1) 主要諸室条件	7
(2) 内外装計画	8
(3) 防災機能	8
(4) 構造計画	8
(5) 環境・設備計画	8
(6) ユニバーサルデザイン	8
(7) 外観イメージ・ゾーニング案	9
7. 事業手法	9
8. 概算事業費	10
9. 整備スケジュール	10
10. 事業実施に向けた課題	11
(1) プロフィットセンターとしての適切な管理運営手法の検討	11
(2) 事業費の精査	11
(3) スポーツ施設のストック適正化の検討	11

1. 基本計画策定の背景と目的

(1) 花咲スポーツ公園再整備の背景

花咲スポーツ公園は、昭和16年に開設した運動公園であり、昭和51年から55年にかけて近隣地である競馬場跡地を買収し、それに合わせて各種運動施設を整備することで、現在の花咲スポーツ公園の姿となりました。

現在は、北北海道のスポーツ競技の拠点として、全国、全道大会や地区大会が開催されているほか、スポーツ団体の練習場所として、また、市民の日常利用の場所として長年親しまれてきています。

しかしながら、再整備から35年以上が経過していることから、施設の老朽化が進行しています。特に総合体育館は、一部が現行の耐震基準を満たしていないことや現在のスポーツニーズに対応できていないなどの課題が見受けられます。

そのため、花咲スポーツ公園全体の再整備の考え方を整理した花咲スポーツ公園再整備基本構想を令和6年3月に策定しました。この中で、総合体育館は、建替えにより新たな機能を導入した新アリーナとして整備することとし、東光スポーツ公園との役割分担の明確化や民間活力導入の検討を進めることとしています。

(2) 基本計画策定の目的

本基本計画は、基本構想に方向性が示された新アリーナの整備に向け、施設に必要な機能・規模の設定や公園内での配置、新アリーナに付随して整備する新たな賑わい施設の整理や事業手法の検討等を行い、今後の設計段階に向けた諸条件を取りまとめることを目的とします。

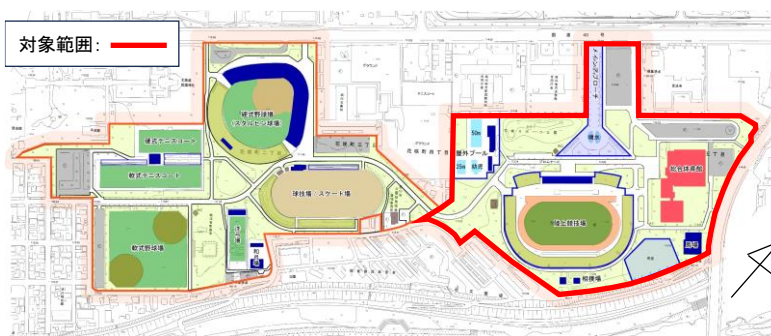


図 1-1 公園全体図と計画対象範囲

方向性

- ✓ 施設全体の老朽化が進行していること、改修工事期間の代替施設が周辺にないことから改修ではなく、同公園内の別敷地に建替（現総合体育館は解体）
- ✓ 東光スポーツ公園（東光SP）基本計画の複合体育施設とあわせて市民スポーツ推進の受け皿
- ✓ 単なる体育館の建替ではなく、プロスポーツやライブ・コンサートなど多目的な用途に対応したプロフィットセンター（収益の向上を目指す）機能を有する多目的アリーナ
- ✓ 市民の安全・安心に寄与するため、災害時における防災拠点機能の強化を検討
- ✓ 整備コストの縮減や平準化、新たな魅力の創出を実現するため、民間活力の活用を検討
- ✓ 花咲スポーツ公園（花咲SP）全体を地域の賑わいづくりや健康で豊かな市民生活の実現に向けた再整備の中心となる施設

花咲スポーツ公園再整備基本構想より

2. 新アリーナ整備に向けた現状の整理

(1) 国の動向

「スタジアム・アリーナ改革指針」において、コストセンターからプロフィットセンターへの転換、民間活力を活用した事業方式・資金調達方式の導入等が指針として位置付けられています。

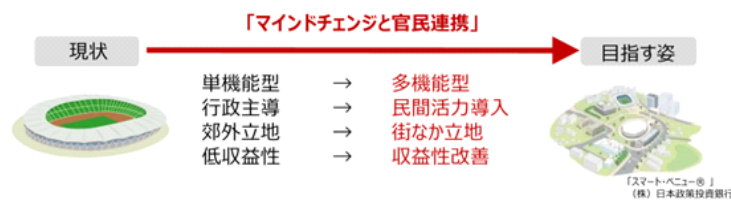


図 2-1 民間連携のイメージ（「第 3 期スポーツ基本計画」より）

(2) プロスポーツの動向

バレーボールの国内トップリーグは、将来的なプロリーグ化を目指す「SVリーグ」とその下部にあたる「Vリーグ」の2つのリーグに再編され、ホームアリーナにかかる要件も定められています。2024-25シーズンには「SVリーグ」所属のライセンス交付が行われ、旭川市を本拠地とする「ヴォレアス北海道」が所属しています。

(3) 市民の新アリーナ及び周辺整備に対する意向

アリーナ整備に当たっては、地域の賑わいづくりに寄与する公園再整備の拠点となるよう進めることとしています。市民アンケートから、スポーツ公園内に賑わいを創出するためにあったらよい施設や空間について、右表のような意見がありました。

表 2-1 スポーツ公園内にあったらよい施設や空間

運動・健康	・ウォーキング、ランニングコースの充実 ・ウインタースポーツ施設（雪合戦、クロスカントリー等） ・冬季等に屋内で運動が出来る施設
公園・設備	・日陰、ベンチ等の休憩スペースの確保 ・野外イベントスペース
飲食・物販	・カフェや飲食店、キッチンカースペース ・売店の充実
こども向け	・こども用施設の充実 ・屋内型の遊戯施設
交通・駐車場	・駐車場の充実 ・旭川駅等からの公共交通手段の充実

(4) 東光スポーツ公園複合体育施設の見直し

東光スポーツ公園複合体育施設の基本計画・基本設計では、現総合体育館の役割が変わらないことを前提に、プロスポーツ等の試合誘致も想定した観客席や控室等を検討していました。しかしながら、花咲スポーツ公園再整備基本構想により、新アリーナは、プロスポーツやライブ・コンサートなど多目的な用途に対応したプロフィットセンター機能を有する多目的アリーナとして整備することとなりました。そのため、東光スポーツ公園複合体育施設の役割を以下のとおり整理し、計画の見直しを行います。

表 2-2 花咲スポーツ公園と東光スポーツ公園の役割

花咲スポーツ公園 新アリーナ	・市民利用+プロスポーツ・興行によるプロフィットセンター	市民・興行利用中心 (一部大会の開催も検討)
東光スポーツ公園 複合体育施設	・市民利用や大会開催等に適したスポーツ施設	市民・大会・練習利用中心 (現総合体育館と同様の役割)

3. 整備基本方針

(1) 基本理念・基本方針

① 目指すべき姿

新アリーナを核とした拠点づくりを目指し、
‘スポーツ’と多様なコンテンツを掛け合わせた新たな魅力を創出します。

スポーツは、発育期の健全な成長や健康増進をはじめ、人と人との交流を促進し、地域や経済への波及効果など、様々な価値をもたらすことが期待されています。花咲スポーツ公園の新アリーナ整備においては、本市のスポーツ振興を支える基盤を整備することに加え、新たなまちの魅力を創出し、自分たちのまちに誇りを持つシビックプライドの醸成へと繋げていきます。

② 基本方針

I 多様な世代が 集う交流拠点 の整備	地域の方々が日常から利用でき、非日常も体験できる、多目的な用途に対応した新たなまちのシンボル・"旭川アリーナ（仮）"を整備します。 ○アリーナの整備概要 ●プロスポーツやライブ・コンサートなどの興行をはじめ、多様なニーズに対応 ●全国大会など、様々な地域から集う規模の大きい大会に対応 ●自然環境への配慮、災害等への備えなど非常時に対応
II 旭川らしい 新しい価値の 創出	「する」「みる」「ささえる」スポーツの拠点として幅広い世代が様々な角度からスポーツを楽しめる環境を整備します。 ○公園施設再整備概要 ●ニーズに応じた機能とするため既存施設を再編・改修整備 ●季節に応じた新たな遊びの空間を整備 ●需要に見合った駐車台数の確保
III 多様化・変動 するニーズ への対応	地域課題や求められるニーズを的確に捉え、魅力ある様々なコンテンツを提供していきます。 ○民間活力導入方針 ●民間のノウハウが取り入れられる持続可能な事業スキームを構築 ●収益施設を備え、公園施設との相乗効果により魅力向上を目指す ●公園全体をフィールドとした様々なイベントなどを企画・実施

4. 必要機能・規模

(1) 必要機能・規模

必要な機能や延床面積については、SVリーグやBリーグ等のプロスポーツのホームアリーナ基準や他都市の類似事例を参考に検討し、以下の表のとおり設定しました。また、市民アンケートの結果も踏まえ、「こども用施設の充実」、「屋内型の遊戯施設」としてキッズルームを、「冬季等に屋内で運動が出来る施設」としてトレーニングルームを確保する計画としています。

表 4-1 必要機能・規模 一覧

室 名			面 積	備 考
メイン アリーナ	競技 エリア	競技場	2,200㎡	有効 57m×35m以上 バスケ2面, バレー2面, バド12面, 卓球20面
		観覧席 (固定)	2,800㎡	約5,000席, ランニングコースを含む
		その他	1,200㎡	選手更衣室, 器具庫, 搬入スペース, 移動観覧席収納
	ラウンジ等		700㎡	個室付き観覧席, ラウンジ, パントリー トイレ, バリアフリートイレ, 授乳室
サブ アリーナ	サブアリーナ	900㎡	バスケ1面, バレー1面, バド4面, 卓球5面	
	観覧席(固定)		約50席	
	器具庫			
多目的運動室			390㎡	卓球2面, 倉庫
キッズルーム			100㎡	
トレーニングルーム			350㎡	
管理諸室			1,400㎡	事務室, 医務室, 審判更衣室, ドーピングコントロール室, 大会運営本部室, 放送室, 給湯室, 多目的室, 会議 室(審判控室, メディア対応エリア等), 警備室, 防災備 蓄倉庫, 電気室・発電機室・機械室
共用部			4,000㎡	エントランスホール, ロビー, ショップ, 飲食関連施設, 更衣 室, 多目的更衣室, トイレ, バリアフリートイレ, 授乳室, そ 他共用部
			約 14,000㎡	

(2) 必要駐車台数

現総合体育館や公園内の屋外スポーツ施設で開催されている大会では、概ね2,000人以下の参加人数となっているため、それを満足する駐車台数として約500台の駐車台数を確保することとします。

また、新アリーナと近接する陸上競技場等でのイベント・大会開催に関しては、開催時期の違い（新アリーナ：プロスポーツの開催は冬季メイン、陸上競技場：夏季メイン）を前提としつつ、イベント等が重複する場合には、限られた駐車台数の中で、利用調整を図ることとします。

なお、興行開催時の来場者を5,000人とした場合の駐車台数は、「1,231台」と推定されますが、公園内で全ての駐車場需要を満たす駐車台数の確保は困難なため、公共交通機関の利用を促すとともに、周辺での臨時駐車場の確保、シャトルバスの運行などの方策を検討します。

5. 公園北東側エリアの整備方針

(1) 公園施設計画

① 新アリーナ

- 新アリーナは、花咲スポーツ公園全体のにぎわい創出と施設間の連携に配慮し、国道40号からの視認性が確保でき、かつ公園内の動線の結節点となる位置に配置します。

② ニュースポーツエリア

- ニュースポーツ（アーバンスポーツ）の発展を見据え、バスケットボール（3×3）やスケートボード等を実施できるエリアの整備を検討します。また、駐車場の利用が多い曜日・時間帯における駐車場への転用も合わせて検討します。

③ キッズパーク

- こどもたちが遊べる噴水や複合遊具等の遊戯施設を整備します。



スケートボードパーク



バスケットボール（3×3）コート

④ 相撲場・馬場

- 相撲場は、ここ数年の利用がほとんどなく、今後の利用が見込めないことから廃止します。
- 馬場は、市民や観光客が手軽に乗馬を楽しむことができ、賑わいや交流の拠点として期待できることから、相撲場の跡地を含めた陸上競技場東側に再整備します。



⑤ 収益施設

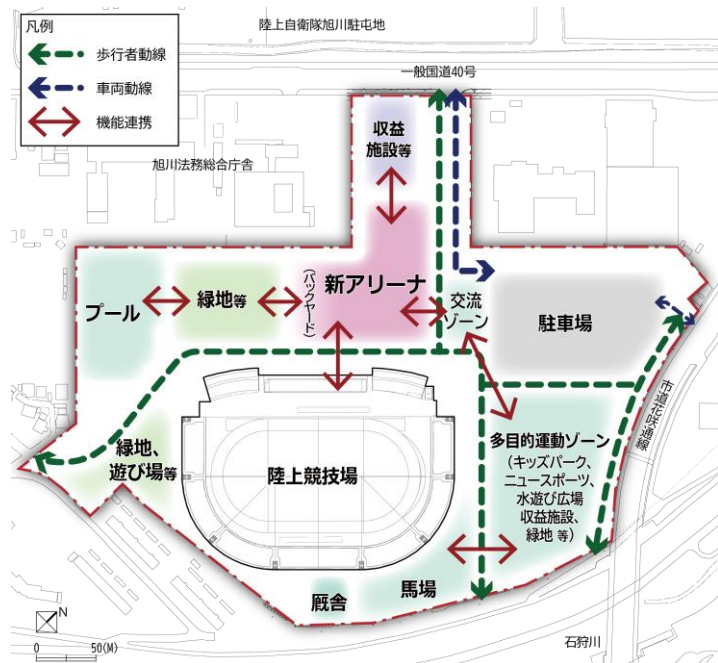
- 飲食店、売店等の収益施設は、民間事業者による設置、運営を検討します。配置は、公園外からの視認性が高く、利用しやすいメインアプローチ付近を基本とし、公園内の利便性を配慮した分散配置も検討します。また、駐車場も併設します。

(2) 施設配置計画

新アリーナは、公園内の既存施設から適度な距離を確保し、相互の利用やイベント開催時の混雑等に影響が生じないように計画します。合わせて公園北東側エリア全体の回遊・連携動線の整備や駐車場配置の最適化を図り、メインアプローチ等を含む外構を再整備します。

(3) アクセス

公園敷地北側の国道40号からのアクセスを基本とし、歩行者と車両の動線を分離します。また、イベント開催時には交通集中が懸念されるため、一般来場者と関係車両の動線分離や関係者用駐車場の整備等を行います。



(4) 動線計画

駐車場及び歩行者動線から利用しやすい位置に新アリーナのエントランスとそれにつながるゾーンを整備し、視認性やデザインに配慮します。

(5) 交通計画

大会・イベント等の開催時に、公園周辺への影響が生じないように、必要駐車台数を適切な位置に確保します。

(6) 外構計画

① 緑地計画

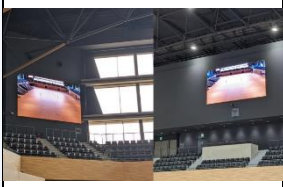
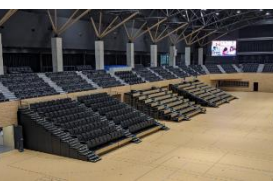
- 既存樹木は可能な限り保存し、伐採する場合には有効活用を検討し、現在と同程度の緑地量の確保（緑被率30%以上）に努めます。駐車場や屋外施設周辺は、景観向上と木陰の創出のため、機能性に配慮しながら緑化を行います。

6. 新アリーナ整備方針

(1) 主要諸室条件

① メインアリーナ

- メインアリーナの規模は、バスケットボール2面、6人制バレーボール2面、バドミントン12面、卓球20面等の設置が可能な57m×35m（有効寸法）以上とします。
- 観覧席は、2階に車椅子利用者席及び固定観覧席、立見席、1階に移動観覧席等を設置し、計5,000席を確保することで、バレーボール、バスケットボール、フットサル等のプロの試合に対応できる計画とします。
- 3階にSVリーグやBリーグの施設基準に対応する個室付き観覧席やラウンジを設置し、専用動線を整備します。
- 固定観覧席の後方周囲には、2人同時に走行できる幅のランニングコースを整備します。
- 多様なイベント等に対応できる照明設備や音響設備が設置できるよう計画します。プロスポーツ開催時に使用できる大型映像装置を壁面等に設置します。

名称	大型ビジョン	観客席	ランニングコース	個室付き観覧席・ラウンジ
イメージ				

② その他の諸室

表 6-1 新アリーナ 主要諸室条件

名称	サブアリーナ	多目的運動室	トレーニングルーム	キッズルーム
主な用途	プロスポーツや大規模大会開催時のウォーミングアップ会場やサブ会場として使用	卓球や格技、ダンス、健康教室等での利用 大会開催時のラウンジや控室としての利用	ストレッチ運動、ウォーキング、ランニング、筋力トレーニング等の利用	幼児の運動及び、幼児を持つ親のスポーツ活動を支援する場
備考	観客席(50席)の設置、転落防止柵の設置 等	音響設備、壁面鏡、バレーバー等の設置	トレーニング機器の設置	親子トイレ、おむつ替えスペースの設置 等
イメージ				
名称	会議室	飲食等関連施設	その他諸室	
主な用途	大会開催時等の各種会議、プロスポーツ開催時の審判控室 等	飲食物の提供、物販等が行えるスペース	・エントランスホール・ロビー イベント時の入場管理、総合案内所等 ・トイレ バリアフリートイレ、授乳室、ベビーチェアの設置等 ・器具庫、放送室、大会運営本部、更衣室等 更衣室は、プロスポーツ利用時の選手更衣室としての利用にも配慮	
イメージ				

(2) 内外装計画

装仕上げは、旭川市地域材利用推進方針に基づき、地域材の利用に努め、木質化が適切と判断される部分の木質化を行います。

メインアリーナ、サブアリーナ、多目的運動室の床は、弾力性、滑り抵抗を加味し、想定される競技に最適なものを選定します。特にメインアリーナの床はプロスポーツのホームアリーナの要件を満たすものとしします。

(3) 防災機能

洪水による浸水の可能性に配慮し、被害軽減のため、主要な電気・機械設備機器類はGL+3m以上に設置します。

また、新アリーナは現総合体育館が担っている物資保管センターの役割を引き継ぐこととし、指定緊急避難場所としての機能を担うために、非常用電源及び燃料の確保と、備蓄品を保管できるよう、防災備蓄倉庫を設置します。

(4) 構造計画

耐震安全性について「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」における「地域防災計画において避難所として位置づけられた官庁施設」に相当する「構造体Ⅱ類、建築非構造部材A類、建築設備乙類」を確保する計画とします。

表 6-2 耐震安全性の目標

部位	分類	耐震安全性の目標
構造体	I 類	大地震動後、構造体の補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られるものとする。
	II 類	大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて機能確保が図られるものとする。
	III 類	大地震動により構造体の部分的な損傷は生じるが、建築物全体の耐力の低下は著しくないことを目標とし、人命の安全確保が図られるものとする。
建築非構造部材	A 類	大地震動後、災害応急対策活動等を円滑に行ううえ、又は危険物の管理のうえで支障となる建築非構造部材の損傷、移動等が発生しないことを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られるものとする。
	B 類	大地震動により建築非構造部材の損傷、移動等が発生する場合でも、人命の安全確保と二次災害の防止が図られていることを目標とする。
建築設備	甲類	大地震動後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られているとともに、大きな補修をすることなく、必要な設備機能を相当期間継続できることを目標とする。
	乙類	大地震動後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られていることを目標とする。

(出典：官庁施設の総合耐震・対津波計画基準及び同解説)

(5) 環境・設備計画

建築・設備における総合的な省エネへの取り組みを積極的に推進し、ZEB Oriented (本事業では一次エネルギー消費量30%以上削減) 以上の性能を確保します。

(6) ユニバーサルデザイン

年齢や性別、国籍を問わず、誰もが安心して利用しやすいインクルーシブな施設として、ユニバーサルデザインに配慮した計画とします。また、メインアリーナ及びサブアリーナの観客席には、視界が妨げられない位置に車いす利用者席を設置。親子連れの利用者の利便性を考慮し、トイレへのベビーチェアやおむつ替えスペースの設置、授乳室等の整備を行います。

(7) 外観イメージ・ゾーニング案



図 6-1 外観イメージ

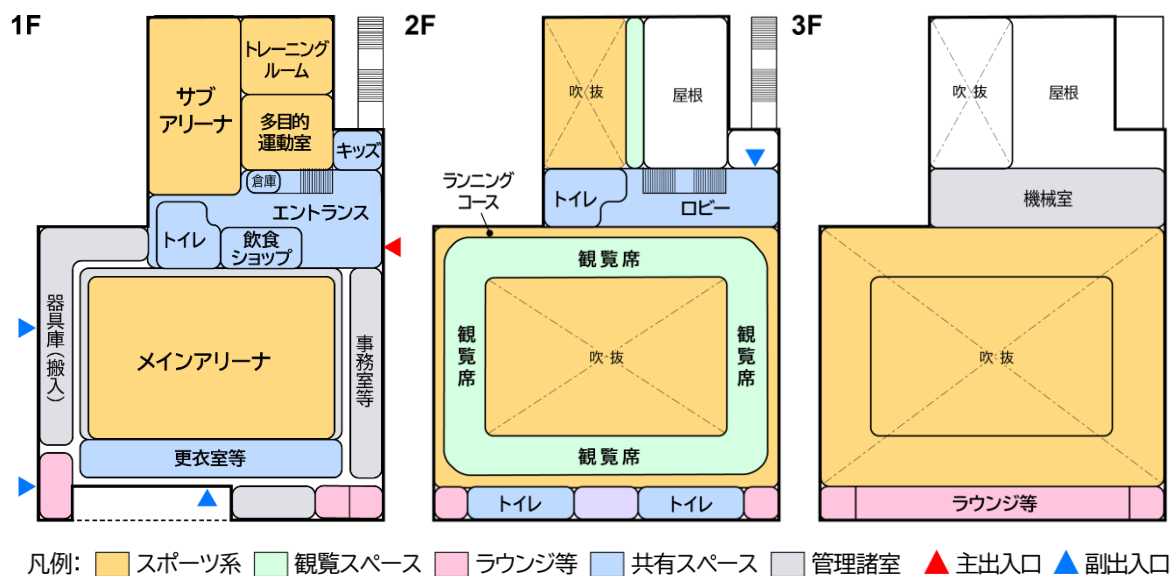


図 6-2 ゾーニング案

7. 事業手法

従来方式に比べ、PFIなどの官民連携による整備は、民間事業者が一括して設計・建設・維持管理・運営を担うことにより、維持管理段階を想定した設計の提案や効率的な建替え工事等、事業者のノウハウが発揮され、サービス水準の向上が期待できます。一方で、従来手法は市の意向の反映等についてメリットがあり、今後、事業手法を総合的に比較・検討し、適切な事業手法を選択するものとします。

表 7-1 事業実施主体の整理

事業手法	事業手法	資金調達	設計・建設	維持管理・運営	施設の所有権	
					運営中	事業終了後
従来手法		公共	公共	公共	公共	公共
PFI的手法	DB方式(Design-Build)	公共	民間	公共	公共	公共
	DBO方式(Design-Build-Operate)	公共	民間	民間	公共	公共
PFI手法	BTO方式(Build-Transfer- Operate)	民間	民間	民間	公共	公共
	BOT方式(Build- Operate -Transfer)	民間	民間	民間	民間	公共
	BOO方式 (Build-Own- Operate)	民間	民間	民間	民間	—
民設民営手法		民間	民間	民間	民間	—※

※民間施設であるが、敷地が都市公園（市所有地）のため、事業終了後は解体・撤去を想定

8. 概算事業費

新アリーナの整備にかかる建設費は約140億円(税込)となります。また、新アリーナの維持管理・運営費は約2.5億円／年(税込)となります。

ただし、近年建設単価・人件費等の上昇が著しいことから、今後も必要に応じて見直しを行うこととします。

表 8-1 事業費（百万円・税抜）

費 目	事業費	備 考
設計・工事監理費・調査費	501	地盤調査費含む
建設費	15,853	
新アリーナ	(12,728)	ZEBOriented 相当
馬場	(657)	
外構費	(2,468)	ニュースポーツ備品, 3×3 バスケットコート, 遊具等含む
解体費	562	現総合体育館, 厩舎, 屋外トイレ等
備品費	348	
合計	17,264	

表 8-2 維持管理・運営費（百万円／年・税抜）

費 目	事業費	備 考
維持管理・運営費	225	人件費, 委託費, 光熱水費, 修繕費等

9. 整備スケジュール

PFI・PFI的手法の導入を想定した場合、新アリーナの整備は、以下に示す事業スケジュールを想定します。なお、総合体育館は、新アリーナ周辺の整備に支障となることから、新アリーナ及び東光スポーツ公園複合体育施設の供用開始後、速やかに解体します。

表 9-1 想定事業スケジュール

令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
事業者選定					
	設 計				
		建設工事			
					開業準備
					運営

10. 事業実施に向けた課題

(1) プロフィットセンターとしての適切な管理運営手法の検討

限りある市の財源を有効活用し、プロフィットセンターとしての良質なサービスを提供する観点から、効率的・効果的な事業手法を検討するほか、事業者の選定に当たっては、魅力的な施設整備・運営を考慮する必要があります。

(2) 事業費の精査

今後具体の検討を行う中で、施設仕様等に応じて、事業費の精査を行う必要があります。

特に昨今の建設市場における物価高騰や働き方改革における労働時間の上限設定、建設業界等における人手不足等による建設費用の高騰傾向が続いているため、引き続き市場動向を踏まえながら検討を進めていきます。

(3) スポーツ施設のストック適正化の検討

市内に立地する室内競技用の体育施設の多くは、機能不足のほか、老朽化も進んでおり、時間の経過とともに、施設の維持や継続のための修繕・改修費の増加が懸念されるなど、財政負担が大きくなることが想定されます。

これらの施設をこのまま維持することは困難であり、施設の利用状況等を踏まえながら施設の廃止や機能集約に向けて検討を進めていきます。